

長寿の祝いは充実すべき！

敬老祝金制度の縮小に反対・共産党市議団

沼田市議会 12月定例会が1日から始まりました。開会初日から「敬老祝金制度」の縮小が提案されました。

沼田市の敬老祝金は現在、77歳の喜寿で5万円、88歳の米寿で1万円、99歳の白寿で3万円、100歳以上で毎年5万円ですが、これを77歳は廃止、100歳時には8万円に引き上げるものの101歳以上は1万円に引き下げ、これにより303万円の削減になるということです。近隣町村の「敬老祝金」は、数倍の額ですが、本市では縮小が繰り返されており、長寿を祝う制度が形だけになろうとしています。高齢者の生きがいの一つにもなっている「敬老祝金」は、縮小させるべきものではなく、充実することこそ必要です。



中央公民館の除却撤回請願や官製談合事件などが審議されます

12月議会は11日までの12日間 ぜひ傍聴にお出かけ下さい

一般質問通告者は11人で、3、4、7日の3日間に行われます。「中央公民館の廃止・除却方針の撤回」を求める請願の審査は、8日の総務文教常任委員会で審査され、結果についての審議、討論、採決は最終日の11日の本会議で行われます。さらに、提案されている中央公民館の解体設計業務委託料の補正予算についても11日の本会議で審議、討論、採決が行われます。なお、井之川博幸議員は、7日の午後の一般質問で、中央公民館と談合問題などを取り上げます。



利用者の反対を押し切って取り壊されようとしている中央公民館

国民の苦難を解決する政治に

たなはしせつ子さんが市民に訴え

29日、市内裁判所前で「たなはしせつ子」さん（日本共産党群馬衆院1区予定候補）が街頭演説を行い、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国民の苦難の解決や学術会議の会員任命問題、安倍前首相「桜を見る会」疑惑などにまったく誠実さを見せない菅首相の態度を批判、近々行われる総選挙でこの群馬1区でも野党統一候補を擁立し、野党連合政権を実現しよう、その先頭に立つという決意を集まった市民やスーパーの買い物客などに訴えました。



街頭から訴えるたなはしせつ子さん(中) 井之川博幸市議(左)大東宣之市議(右)

宮川ひろさんを名誉市民に

利根郡東村千鳥（現在の沼田市利根町千鳥）出身の児童文学者故宮川ひろ氏の功績をたたえ、沼田市名誉市民に決定する同意を求め議案が提出されました。

宮川ひろ氏の略歴は、1923年3月15日生、利根郡東村尋常高等小学校平川分教場を皮きりに教員を歴任、1950年教員をやめ児童文学者をめざし、1965年日本児童文学者協会入会、4年後「るすばん先生」を出版、その後「春駒のうた」出版、「夜のかげぼうし」で赤い鳥文学賞受賞後、数々の児童文学賞を受賞。「春駒のうた」は1986年に映画化され、本市などでロケが行われ、第9回タシケント国際映画祭で最優秀作品賞を受賞しました。「改訂きりえ沼田かるた」に仲間入りをしています。2018年12月29日亡(95歳)



2020年12月6日 No.997

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料